令和５年度１１月号　令和５年１１月１日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校　長　佐伯　孝司
https://shibuya.schoolweb.ne.jp/ueharae

拍手と握手のある学び

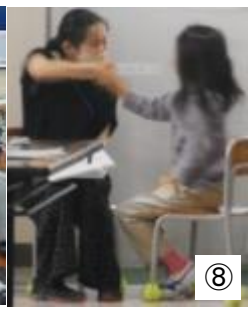
校長　佐伯　孝司

将棋で史上初の八冠全冠制覇を達成した藤井聡太さん。藤井さんが小学校４年生のときの担任だった先生は、藤井さんが発したこんな言葉が記憶に残っているそうです。「５分で分かることを４５分しゃべる先生たちは無駄だよ」これに対し、担任の先生が「でもね、５分でわかる聡太みたいな人もいれば、２時間かけてもわからない子もいるから、私たちはその時によって合わせる基準を変えているんだよ」と説明すると、藤井さんはすぐに納得したということです（スポーツ報知 Web サイト 2023 年６月３日６時０分配信記事による）。学ぶ意味を問いながら自分の考えを言語化して伝えることができること、さらに先生の視点からの説明をすぐに理解して受け止めることができること、素晴らしいなと思いました。子供の話を聞き、納得できるように説明する先生もすてきです。

１人の教員が２０～４０人程度の児童を指導することが多いのですが、なるべく個々の状況に応じて「分かった」「できた」経験を積ませながら、主体的に学ぶ姿を実現するように、教員みんなで学び合っています。特に今年度は、水曜日の午後の時間をこうした研修に活用しています。児童が「５分で分かるから無駄」ではなく、分かっていることや経験、興味・関心などを活用して次の学びにつなげる「学びのつながりの自覚」、学習内容のよさとともに学習過程での学び方のよさなどを学ぶ「学びの価値の自覚」、自分の頑張りや友達との学び合いなどの過程で自分の成長を感じる「自己の変容の自覚」をもって授業に臨めるよう、教員みんなで考えています。

画像①は、算数の円の学習で、こま作りに挑戦しているところです。円の中心を軸にすることに気付き、円の中心をどのように求めたらよいか、直径や半径との関係はどうかなどの知識、国語でのこまの学習での興味・関心や学習内容とのつながりを考えながら、学び合い、試行錯誤していました。この姿は、画像②のようにしっかり基礎を学ぶ姿、③のように一人一人が考えながらタブレットで考えを共有する姿ともつながっています。国語で学んだことが算数で生かされたこと、基礎的内容の大切さ、友達と学ぶことのよさなど、様々な学習の価値を自覚することにつながっていくと期待しています。

画像④は、共通の学習課題について１時間かけてたどり着いた自分の考えを発表した友達に、周りの友達が拍手を贈っているところです。その１時間の中では、⑤のように各自が自分に合った課題解決へのアプローチを考え、必要だと思う情報を集めてみる、自分の考えを表現してみる、友達と話し合ってみる…という姿がありました。⑥のように一人一人が自分の学びを見通し、振り返る姿もあります。１時間の学習の前後で自分が変わったなと思うことなどを自覚することにつながっていくと考えます。⑦は⑤と同様に自分で課題解決に向かう姿ですが、下学年でも自分で考えて学ぶ経験を大切にしていきたいと思います。



画像⑧は、前期の終業式の日の児童と教員の姿です。前期に頑張ったこと、よくなったことなどを共有しながら、成長の喜びと今後への期待も共有し、握手をしています。教育目標「ともに学び　ともに生きる」のような児童の姿がたくさん見られるよう、児童と共に私たちも学んでまいります